

平成28年度

久米島町教育委員会の事務に関する  
点検・評価報告書

平成29年9月

久米島町教育委員会

## ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとなっております。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

\*平成29年8月1日現在

職 名	氏 名	任 期
委員長	山元朝弥	27年7月10日から31年7月9日
職務代理者	儀間剛	28年7月10日から32年7月9日
委員	高江洲眞知子	29年7月10日から33年7月9日
委員	糸数真由美	26年7月10日から30年7月9日
委員（教育長）	吉野剛	26年7月10日から30年7月9日

学識経験者名簿 (五十音順)

\*平成29年8月1日現在

役 職	氏 名
元久米島 PTA 連合会会長 (委員長)	比嘉 淳
元久米島町役場	平田 明
元養護教諭	宮平 厚子

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホーム・ページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

## 2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成28年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

### (2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

#### ・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

### (3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を委員に任命し、ご意見をいただきました。

### (4) 評価基準日

平成29年3月31日

### (5) 評価実施日

平成29年8月24日

## 平成28年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「平成28年度久米島町教育主要施策」を定めました。

### 教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

### 目標達成のための主要施策

#### 学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」をはぐくむ学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、学力向上推進プロジェクトを指針として全校体制による「わかる授業」の構築に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
学力調査	1, 全国学力学習状況調査 * 小6年生・中3年生 2, 県到達度テスト * 小3～6年、中1～2年 3, 標準学力検査 * 小4～6年生、中全学年	○全国学力・学習状況調査（6年）は、全教科の平均正答率の県差が+0.5 p、全国差が+1.5 pと沖縄県、小 学 ○県到達度調査では、全教科の平均正答率の県差が3 校 年生で+0.5 p、4年生で+0.8 p、6年生で+0.7 pであ った。 ●県到達度調査の全教科の平均正答率の県差が5年 生で-0.8pと若干下回った。	A	A
		●全国学力・学習状況調査（3年）は、国語A B 総 合の全国差が-7.95 pとなっているが、前年度より全 中 国差が縮まってきている。 学 ●全国学力学習状況調査（3年）は、数学A B 総合 校 の全国差が-10.3 pとなっているが、前年度よりは全 国差が縮まってきている。 ☆町の一事徹底事項「理由や根拠を基に説明、書か せる活動」「めあてに正対したまとめや振り返りの 充実」を学校訪問、校内研等で説明し授業改善に向 けた取組の充実を図っていく。	C	B
検定支援	1, 漢字検定 * 小学校2年以上に漢字検定 2, 英語検定 * 中学校生全員対象	○漢字検定 H28年合格率 69.6 %（前年度比-6.9） ○英語検定合格率 34.2（前年度比+2.6） 3級以上の合格者は13名	B	B

地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全ての小中学校で、地域教育資源を活用した授業を実施できた。200時間以上	A	A
久米島町学力向上実践発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員1人1人が研究授業及び授業研究会を通して相互的な研修を行い、それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。</li> <li>・中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践の共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校区ブロックで学力向上推進研修会を実施し、授業改善に向けた取組の共有化を図ることが出来た。</li> <li>○町内全小中学校教師が参加し、文部科学省の算数の教科調査官を招聘、授業研究会及び学力向上推進に関する国の方向性について研修会を行うことが出来た。</li> </ul>	A	A

### 道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性をはぐくむことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的なかかわりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
道徳・人権教育	道徳の時間の指導の充実 ＊指導案を作成しての研究授業の実施	○全校で指導案を作成しての研究授業が実施され、また全教諭が1回以上は授業公開できた。 ●次年度、道徳の教科化に向けた更なる研修会の充実が必要である。 ☆町教職員研修会で道徳の授業づくりに関する研修会を行っていく。	B	B
	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等に関する調査を実施	○全小中学校で、いじめ等に関するアンケート調査を定期に実施できているので、結果については学校全体で共通理解できている。  ●いじめを認知している学校数として小学校2校、中学校2校で変わらないが認知件数で小学校が10件、中学校で3件増加している。小学校については、低学年が件数を占めており、中学校では各学年女子で1件ずつ増加している。原因としては子ども達同士の冷やかしの悪口、仲間はずれ、遊ぶ中で叩いたりなどが上位を占めている。いじめの児童生徒への対応、いじめられた児童生徒への特別な対応、いじめ問題に対する日常の取組でも昨年度の倍近くの取組を行っているが継続的に実施しなければならない。	B	B



## たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
体力向上・健康 保持増進	体力・運動能力、運動習慣等 調査の実施	○小学校では、総合評価で男子は県差 3.35 p、全国差 2.24 p 上回っている。女子も総合評価で県差 2.65 p、全国差 1.03 p 上回っている。 ○中学校では、総合評価で女子は県差 1.78 p、全国差 0.63 p 上回っている。 ●中学校では、総合評価で男子は、県差-1.5 p、全国差-1.97 p 下回っている。男女とも 20 m シャトルランの差が大きかった。	A	A
	幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システムを活用し、健康管理に努める。	○福祉課、公立病院、女子栄養大学、各学校との連携が取れ、体制づくりが構築できている。 ○中学生の肥満度傾向は、昨年度に比べ減少している。 ●小学校はH25～H27年度にかけて肥満傾向の児童が減少していたが、今年度増加している。	B	B
	健康教育講演会等の開催	○学校保健委員会を年 2 回実施でき、その中で学校三師（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）から助言をいただくことが出来た。 ●専門家による講演会は、開催できなかった。	B	B

交通安全指導	<p>新学期に幼・小1年を対象に安全協会・警察と連携した交通安全指導を実施している。</p>	<p>○那覇署、町交通安全協会の職員を講師として、全幼稚園・小学校において、信号機の見方・横断歩道の渡り方等について、実際に信号や横断歩道を使った訓練を行うことができた。</p> <p>●各学校で登校時に校門や交通量の多い通学路等で交通安全指導の対応を民生委員等で展開しているが、日常的に対応出来る保護者が少ない。</p>	A	A
なつやすみ水泳教室	<p>夏季休業期間中に、泳力の向上を図ることを目的に、B&amp;Gプールを活用し、希望者のみ午前、午後各3回開催する。</p>	<p>○きめ細かな指導により、泳げない児童は水に慣れ親しみ、泳げる児童は更に泳力が向上した。</p> <p>○去年は0人であった高学年クラスが今回は11名の参加があった。</p> <p>●低学年（18名）に比べると参加人数が少ないので対象クラスを検討する。</p>	A	A

### キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
ジョブシャドウイング学習・職場体験学習	<p>町内各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。</p>	<p>○6小学校の6年生及び2中学校の2年生が、町内の事業所に配置され、職場の見学・体験を行うことができた。</p> <p>○児童生徒が希望した職場に、1～2名程度配置できたことで、より充実した職場見学・体験ができた。</p>	A	A

## 食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
給食センター運営	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生485名・中学生245名・教職員128名に安心安全な給食を提供できた。</li> <li>○各学校からの依頼により、栄養教諭による、食育講話、給食指導を実施し、保護者等への給食試食会を開催した。</li> <li>○地元産海洋深層水栽培野菜、紅イモを使った地元産デザートをメニューに取り入れた。</li> <li>●老朽化している施設の早急な建て替えの為、県教育庁と耐力度調査の内容聴取を行った。</li> </ul>	B	B

## 特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○延べ人数509名へ補助金の交付を行った。</li> <li>○当該年度より補助額の改定を行った。</li> </ul> 生徒1人につき航空(船)賃の上限を5,000円、宿泊費を1泊上限2,500円を補助。 さらに、大会に勝ち残り派遣が複数回にわたるか、	A	A

	成)	那覇地区及び沖縄県代表として上位大会に出場した場合、航空（船）賃の全額及び、1泊上限 2,500 円の宿泊費を交付することとした。 ●一括交付金を原資としているためこれまでよりも一層厳格な事務取扱が求められている。		
--	----	--	--	--

### 平和教育の充実

生命の尊重と個人の尊厳を基本とし、思いやりの心や寛容の心を育む為にも、県や久米島町の歴史や地域の特性を考慮し、児童生徒の発達の段階に応じた平和教育を教育計画に位置づけ、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
平和教育	恒久平和を願う平和学習、平和活動の実施。 * 6月23日の慰霊の日において、町主催の慰霊祭に各学校代表が参加している。	○全小中学校で、平和に関する学習や集会等の取り組みを実践できた。 ○町内全小中学校から代表が町主催の慰霊祭に参加し千羽鶴の奉納や誓いの言葉を述べることで平和の尊さについて考えることができた。	A	A

### 国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図って参ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
国際理解教育	<p>1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。</p>	<p>○どの学校においても、ALTが英語指導助手として積極的に担任とのTT授業を行っており、生徒も意欲的に学習に参加出来ている。 ○中学への円滑な接続が出来るように春休み英語教室を6年生を対象に開催した。 ●打ち合わせの時間確保を工夫しているが充分ではない。</p>	A	A
	<p>小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。</p>	<p>○小学校6校でJET（英語指導助手）として積極的に担任とのTT授業を行っており、児童も意欲的に学習に参加出来ている。 ○中学への円滑な接続が出来るように春休み英語教室を6年生を対象に開催した。 ●打ち合わせの時間確保を工夫しているが充分ではない。</p>	A	A
	<p>国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。</p>	<p>○派遣した生徒にとって貴重な体験・経験となり、参加した生徒の視野の広がりや成長が見られた。特に、町の意見発表会でアメリカでの体験・経験を多くの生徒に述べる事が出来た。</p>	A	A

## 特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものであります。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性等や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
教育支援委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	○申請があった児童生徒全員の心理学検査や支援判定のための審議を慎重に行うことが出来た。 ●教育支援委員会に申請される児童生徒の心理学検査を実施する、検査員等の人材が十分でない。	B	C
特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校に13名、中学校に2名の特別支援教育支援員を配置している。	○特別支援教育支援員小学校12名、中学校2名を配置できた。(前年比-1名) ○特別支援教育支援員連絡会を開催することで支援員の資質向上を図ることができた。 ●通常学級における支援が必要な児童生徒が増え、各学校のニーズに対応する為、不足分の特別支援教育支援員の募集を行っているが、応募者がいない。	B	B

## 情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。また、情報化社会に対応できる情報活用能力を育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
小・中学校情報教育	高度情報通信社会に対応できる為の小中学校の情報機器の整備。	<p>○全ての小・中学校において、教科書改訂に合わせてITを活用した授業（デジタル教科書、大型テレビ、P C等）や情報教育が効果的に実践できている。特にデジタル教科書の活用を全学校とも工夫して実施している。</p> <p>○ICT研修を小学校教諭を対象に1回、中学校教諭を対象に2回行い、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>●各学校のパソコン室の端末機が旧式で耐用年数もすでに経過しており、故障も多いので、今後財源確保も含め計画的に新しい機器への更新が必要。</p>	B	B

## 環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など接続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	<p>○ホテル館との共催で4/20、21にホテル観察会を開催した。親子約63名の参加があり、昨年ほどの乱舞は見られなかったが、様々な要因でホテルの出現が変わることを知ることが出来、環境保全の大切さを学ぶ事が出来た。</p> <p>●自然観察のため、天候等条件により十分な学習機会を提供出来ない場合もある。</p>	A	A

## 生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを中学校を中心として派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○県派遣スクールカウンセラー及び町スクールカウンセラーを全小中学校へ、計画的に配置できた。限られた派遣日数ではあるが、各学校でも積極的に活用できている。 ●県カウンセラーの訪問回数が少ない。(中学校は週1回、小学校6校が月1回) ☆県スクールカウンセラーの効果的な活用を工夫する。	B	B
毎月の問題行動状況の把握	町内の全小中学校における不登校・暴力行為等の調査を、各学校及び学年ごとに毎月実施集計し、報告する。	○不登校の件数は大幅に減少した昨年度に比べると同じ件数であるが、小学校が1名増、中学校が1名減となっている。 ●今後も関係機関と連携した対応及び継続的な支援が必要である。	A	A
関係機関との連携	問題の内容に関係する機関(福祉課、警察、県の児童相談所等)と連携し、適切な対応を取る。	○問題のある児童生徒のケース会議を開き支援方法を共有することができた。 ●継続的な支援・対応がこれからも必要である。	B	B



## 幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものであります。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している。	○希望する全ての園児を預かることが出来ている。 ●免許を保持する預かり指導員の確保が難しい。病気等で休んだ場合の補充職員がいないことから、幼稚園教諭がフォローに入る。 ●免許保持者を嘱託職員として採用することができないか、調整している。	B	B
	幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている。	○清水幼稚園、仲里幼稚園にヘルパーを配置し、それぞれの園において、園児のニーズにあった支援ができた。 ●学期途中で、集団行動や言葉をうまく発せない支援を要する園児が新たに出現した園があった。	B	B

## 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮するとともに生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

主要小目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
児童・生徒交流	<p>&lt;小学校・なかさと交流&gt; 2月に新潟県十日町市に5年生14名を派遣、7月には本町において受け入れ交流を図る。</p>	<p>○交流生は、島あるいは学校の代表としての自覚を持って事前学習から取り組み、事業の目的である異文化について学び、気候や風土の異なる新潟県十日町市児童との友情を深めながら自己の視野を広げる事が出来た。また、交流会後は、各学校での活動に積極性が見られ、リーダー的存在として頑張っている様子が感じられる。 ●各学校毎に児童数を割り当て交流生を選考しているが、児童の選考に苦慮している学校も見られる。</p>	A	A
	<p>&lt;中学校・佐賀市交流&gt; 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。</p>	<p>○夏交流に比べ冬の交流では、生徒の学ぶ姿勢がとでも見られ、よく学習できていた。 ●友達をつくる交流会（レク）から、友達をつくりながら学ぶ交流会（学習）にできるように事前研修の内容を検討する。 ★学校交流ではないので教諭の引率等に係る負担に苦慮している。</p>	B	B
夏休みものづくり体験教室	<p>夏休みに、昔ながらのおもちや、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。</p>	<p>○地域の方々を講師として依頼し、様々な素材を活用した普段体験できない「ものづくり」と人的交流ができた。 ●基本希望すれば先着順でどの教室も受講できることとしているが、各教室の開催時間の調整で、混乱している教室もあったので、受講数を制限するなどの検討が必要である。</p>	A	A

ヤングフェスティバル	<p>子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。</p> <p>* 唄・三線、舞踊、ピアノ、空手、伝統芸能等</p>	<p>○多くの町内の幼児児童生徒（約 210 名）が参加し、幅広いジャンルで日頃の練習の成果を発表できた。家族や関係者の参加も多く、大きな声援を送っている。</p> <p>●出演団体が多く、開催時間が長時間となる課題がある。出演団体を隔年輪番にするなどの調整が必要。</p>	A	A
久米島町子ども読書まつり	<p>本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。</p>	<p>○沖縄県子どもの本研究会との共催で、読み聞かせの実演や本の販売等、読書に親しむ機運づくりを行えた。</p> <p>●中学生の参加が少なく、中学生が来場したくなるような企画立案が必要だと感じた。</p>	A	A
久米島現代版組踊り	<p>地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。</p> <p>* 一括交付金を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久米島公演</li> <li>平成29年3月19日開催</li> <li>観客：約680名</li> <li>観客：約800名</li> </ul>	<p>○4年目を迎え、参加生徒の入れ替わりが多々あるが、ある程度の表現力が身につき、堂々と演じることができるようになった。</p> <p>●自主運営・独自の展開を取り組めるよう運営母体組織の強化が必要である。年々参加者が減っており、中高生に活動の魅力を伝えるためにも、公演・稽古のみでなく、歴史の勉強会やリーダー研修など独自の取り組みを増やしていきたい。</p>	B	A

## 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
久米島町新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○島内小中学生の出展数が472点、一般（高校含）が29点となっており、前年度より増えた。特に中学生が30点以上増えており、書道文化の底辺拡大を図れている。 ●当日の来場者が伸び悩んでおり、周知方法を検討する。 ★小・中学生の銀賞以下は案内をしていないので、チラシ（お知らせ）を配布する。	A	A
放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを目的として開催している。	○放課後の子ども達の安心で安全な居場所としての環境作りが確保できた。（6小学校で15教室を実施） ●全ての小学校で開催出来たが、一部に講師や安全管理員等の人材が確保できず、実施出来なかった教室も見られた。	B	B

## スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	○3年ぶりの開催となった大会は町民約800名が参加し、大きな運営遅れ等もなくスムーズに終わることができた。 ●役員においても細かな反省事項が多少あり、次年度は役員配置を見直し、運営をよりスムーズにできるようにする。	A	A
学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	○3校の施設(球美中、久米島西中、比屋定小)を開放、活用しており、毎日各団体が利用してスポーツを通じて健康増進を図っている。 ●1施設(比屋定)については利用団体が少なく、体協主催のイベントや不定期の利用となっている。	A	A
各種競技会支援	小体連・中体連行事等の支援	○児童生徒は、意欲的に参加し競技できた。また、保護者の応援も多い。	A	A
B & G 海洋センタープールの開放	B & G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあい及び学校授業で活用している。	○土曜日日曜日は50～100名の利用者がおり、子どもの居場所づくりの役割をはたしている。 ○小学校3校に開放しており、体育の水泳指導で活用している。 ●職員の雇用が半年(短期)で不安定の為、毎年職員の確保に苦慮している。	B	B

## 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうとする学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図って参ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○約半年にわたり、初心者向けの教室として開催した。三線に親しむよいきっかけの場となった。(受講申し込み者 具志川教室8名、仲里教室9名/修了証交付者 具志川教室5名、仲里教室4名 ●参加者が前年より少なく、参加者が集まるような工夫が必要だと感じた。	B	B
移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。	○県立図書館の制度を利用し、2000冊を超える本の貸出を町民へ提供でき、読書環境の充実や機運醸成に繋げる事ができた。	A	A

## 文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○収蔵資料の適正管理については、博物館機能強化事業の一環として、平成 30 年度に実施予定の全館空調設備刷新に向けた事前調査を開始した。 ●資料のデータ化は平成 29 年度完了を目標に実施中であるが、上記事業の実施にあたり、遅れが見込まれる。	B	B
具志川城跡保存修理・整備	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため調査を実施し、城跡を修復する。	○平成 27 年度～ 35 年までの事業予定で、本年度は既設階段上に新たな木製階段を設置し安全に見学できるようになった。 ●複数の国・県補助事業を抱えながら、1 人の職員で調査・整備事務を行っているため、整備計画に遅れが生じている。	B	B
町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○町史編集嘱託員を引き続き雇用し、行政関係を中心に原稿執筆を行っているほか、外部執筆者より 3 人原稿が入稿され、編集作業に取りかかった。 ●執筆承諾後に執筆内容の変更や執筆者の追加があったほか、執筆に向けた調査に複数年を要し、当初予定より遅れが見込まれる。	B	B
文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	○指定文化財や歌碑の草刈り及び修復作業を行い、地域学習等に利用できた。 ●清掃を必要とする文化財が多く、現在、草の伸びに草刈り作業が追いついていないので、環境保全課と連携して行いたい。	B	B

## 教育委員会の活動状況について

### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。平成28年度は14回(臨時会2回を含む)開催しました。

### (2) 教育委員会会議以外の活動状況

#### ○ 研修会 (3 回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (28年度5月)

沖縄県市町村教育委員研修会 ・ 那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (28年度10月)

市町村教育委員会教育委員委員 ・ 教育長研修会 (29年2月)

#### ○その他活動状況 (各種行事等への出席)

年度	月	活 動 状 況	備 考
28	4	久米島高校入学式	久米島高校
		町立小中学校入学式	各小中学校
		町立幼稚園入園式	各幼稚園
		2幼稚園視察(町長、副町長)	清水・仲里幼稚園
		新任教職員歓迎会	改善センター
	5	市町村教育委員・教育長研修会(12日～13日)	てだこホール
		久米島PTA連合会定期総会	改善センター
		小中学校・学校訪問(仲里小、比屋定小)	各学校
		小中学校・学校訪問(美崎小、大岳小)	各学校
		小中学校・学校訪問(久米島小、球美中)	各学校



		小中学校・学校訪問（清水小、西中）	各学校
		学力向上推進研修会（笠井文科省学力調査官）	仲里小学校
	6	教育総合会議	2階会議室
		大田昌秀 平和講演会、出版祝賀会	改善センター
		町慰霊祭	上田森公園
		西中チャリティーグラウンドゴルフ	ふれあい公園
		仲里交流（6月30日～7月3日）	各小学校
	7	なかさと交流	各小学校
		小体連水泳大会	B & G プール
		球美中・西中運動会	球美中・西中
		久P連球技大会	西中・大岳小
		仲里幼稚園統廃合後の施設改修予定について説明会	仲里幼稚園
	8	佐賀市・久米島町中学生交流（8月5日～7日）	イーフ情報プラザ
		健康プロジェクト報告会	改善センター
	9	小学校運動会	各小学校
		久米島PTA連合会研修	改善センター
	10	運動会（仲里幼稚園・清水幼稚園）	各幼稚園
		清水小チャリティーグラウンドゴルフ大会	ふれあい公園
		久米島町音楽コンサート	改善センター
		市町村教育委員会研修会	パレット劇場
		那覇地区教育委員会競技会	那覇市役所

		小体連陸上競技大会	仲里グラウンド
		世界の久米島んちゅ大会	改善センター
		九州へき地研究 久米島大会	町内4小中学校
	1 1	中学生意見発表会	西中学校
		久P連童話・お話大会	清水小・大岳小
	1 2	清水小学校創立70周年記念式典	清水小学校体育館
		佐賀市・久米島町中学生交流	佐賀市
2 9	1	町新年会	改善センター
		町成人式	改善センター
		ヤングフェスティバル	改善センター
		なかざと交流	十日町市
		久米島町新春書道展（1月28日～29日）	改善センター
	2	中体連角力大会	球美中学校
	3	小・中・高卒業式	各学校

## 《外部評価委員の意見》

### 学習指導の工夫・改善・充実

学力調査は小学校では全国、沖縄県平均を上回ったが、中学校においては、昨年度よりは差が縮まっているものの、正答率が沖縄県平均を下回った。要因の一つとして小学校は全教諭が一体となって取り組めるが、中学校では教科制であるため、全職員が一斉に取り組めないことがあげられる。小学校の段階で学ぶ姿勢を身につけ、児童生徒が主体的に学習する意欲を身に着ける取り組みが必要と思われる。

### 道徳教育・人権教育の充実

人権教育のいじめについては、各学校とも悪口や冷やかしと言った言葉によるいじめがあるということだったが、家庭や地域の中において、適切な言葉遣いをし、大人がお手本となるように小さい頃から子ども達に教育することが必要である。

### たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

体力・運動能力は、小学校では、男女とも総合評価で全国を上回っているが、中学校では下回っており要因の分析と、取組が必要である。幼児児童生徒健康診断は、町・病院・大学と各学校が連携した素晴らし取り組みで、久米島の子ども達の貴重なデータが得られているが、このデータを活用した子ども達の肥満解決に向けた効果的な取組を行えるよう各機関との連携し実施する必要がある。保護者を対象とした栄養指導講演会を多くの保護者が集う久米島地区PTA連合会研修会などで、一般の保護者でもわかりやすく、指導助言の上手い講師を招き講演会を行うなどの取り組みが必要である。

夏休み水泳教室は現在 B & G プールのみで実施しているが、遠くの地域に住んでいる子ども達は、通いたくても移動手段が無い為、通えない子ども達もいると聞くので、小学校のプールを活用し近くに住む子ども達が通いやすい環境を整えれば利用者も増えるのではないか。

### 特別活動の充実

部活動等で島外での大会等へ参加する際、これまでも経費の一部を負担していたが、今年度から新たに補助額の改定行い、県代表や、地区の代表に選出された場合、さらに補助額が増額し保護者の負担軽減になると考える。また、子ども達にとってもより多くの大会へ参加できるチャンスが生まれるので、子ども達のモチベーションも高まり、離島という一つのハンデを克服できる施策でもあるので、今後も取組を継続してほしい。

### 特別支援教育の充実

児童生徒の心理学検査を行う検査員の確保が出来ていないとの事だったが、特別な支援を要する子ども達は、増加傾向であり、心理学検査を行える臨床心理士を福祉課とも連携して確保出来るよう取り組んでほしい。特別支援教育支援員も募集しているが応募者が無く1名不足したとのことだが、募集方法や雇用条件の見直しを出来るよう取組を行ってほしい。

### 青少年の健全育成

中学生の佐賀市との交流事業においては、昨年同様、男女バランスが良く効果的な交流が実施できたと思うが、毎年同じ内容の交流では、マンネリ化すると思うので、佐賀県と久米島は、海洋深層水を活用した温度差発電等の取組で繋がりもあるので、次年度以降は、海洋深層水との繋がりを含めた事前学習を行って、交流を進める事が出来たら面白いのではないかと。

現代版組踊りは、子ども達が一生懸命役を演じ、体全体を使って、表現する事は大変良い事だと思うが、年々高校生の数が減っている現状について、原因等を含め、募集方法や実施方法等の見直しを検討してはどうか。

### 総括

今回平成28年度事務事業の点検評価を行った。教育委員会に置いて様々な事業を展開しているが、その頑張りが正しいかどうかを再度検証し、事務事業について見直しが必要であれば、見直しを行う事で、より効果を高めてほしい。

又、町の教育課題については、教育委員会だけの課題では無いので、他の課とも連携して、職員でチームを作り、月に1回でも良いので定例日を決め、子育て環境や教育課題について情報交換を行える場所を設けて頂きたい。